

◆新技術定着試験

与那国町におけるシャコガイ類ケージ養殖試験

吉 田 聰

1. 目的

与那国では一本釣、曳縄等の漁船漁業が主流である。これらの漁業は天候や海況に左右されやすく、経営として非常に不安定な状況である。また、近年の魚価低迷の影響をうけ更に厳しいものとなっている。シャコガイのケージ養殖手法は管理が比較的簡単な省力化手法であるため、漁業者が漁船漁業の傍らに副業的に行う場合でも十分可能である。そのため、与那国地先においてシャコガイのケージ養殖が可能か検討する。

2. 材料及び方法

平成14年度の試験は、前年度台風被害でケージが流失し種苗がほぼ全滅したため、新たに種苗を導入し、試験養殖場所も比川地先に変更して行った。また、前回はケージの設置と種苗の収容を同時に行っていたが、今回の試験ではケージの流失を考慮にいて、設置から十分期間をおいてから種苗を収容した。平成14年度試験に使用した種苗の収容時期、種類、数、大きさは次のとおりである。

養殖試験場所：比川地先（西海域）

収容時期：平成15年1月31日

種 類：ヒレジャコ

種 苗 数：1,000個（H13産）

大 き さ：種苗のばらつきが大きいため計測せず。

養殖試験場所：比川地先（東海域）

収容時期：同上

種 類：ヒレジャコ

種 苗 数：1,500個（H14産）

大 き さ：最大16.1mm 最小7.4mm 平均9.59mm

3. 結果

前回、養殖試験を行った久部良地先は、台風の影響を受けやすいことがわかったため、今回の試験では、比川地先に試験養殖区域を設けて試験を実施した。ケージの設置場所は、場所による成長の違いを見るため、試験養殖区域内で西と東の2地区に分けて設置する事にした。また、比川地先の種苗については、収容時の大きさにかんがりのばらつきがあったため、生存数だけを計測することにした。結果を下表に示す。

表1. ヒレジャコケージ式養殖試験（比川西）

| | |
|--------------|------------------|
| 飼育期間 | 平成15年1月31日～3月19日 |
| 飼育日数（日） | 47 |
| 開始個体数（個） | 1,000 |
| 平均殻長（mm） | ばらつきが大きいため計測せず |
| 終了個体数（個） | 626 |
| 平均殻長（mm） | ばらつきが大きいため計測せず |
| 月平均成長量（mm/月） | — |
| 生残率（%） | 6.3 |

表2. ヒレジャコケージ式養殖試験（比川東）

| | |
|--------------|------------------|
| 飼育期間 | 平成15年1月31日～3月19日 |
| 飼育日数（日） | 47 |
| 開始個体数（個） | 1,500 |
| 平均殻長（mm） | 9.8 |
| 終了個体数（個） | 1,221 |
| 平均殻長（mm） | 12.8 |
| 月平均成長量（mm/月） | 2 |
| 生残率（%） | 81.4 |

表3. 塩分濃度及び水温

| | 塩分濃度 | 水温 |
|-----------|------|-------|
| 平成14年3月4日 | 34‰ | 22℃ |
| 3月19日 | 35‰ | 21.5℃ |

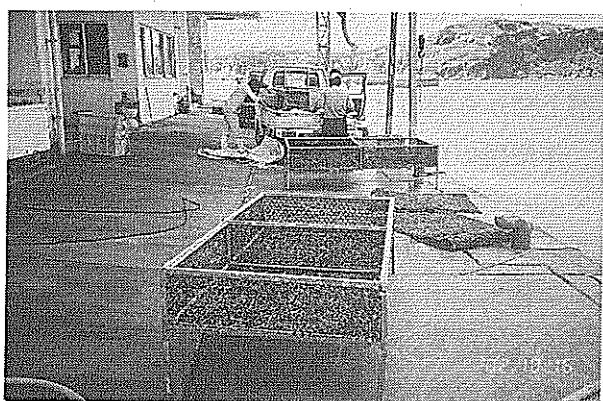
4. 考察

今回の試験は、ケージの設置から3ヶ月経過後に種苗を収容したため、試験期間が極端に短く、生存率は良かったが、場所による成長の善し悪しは分からなかった。また、今回は設置場

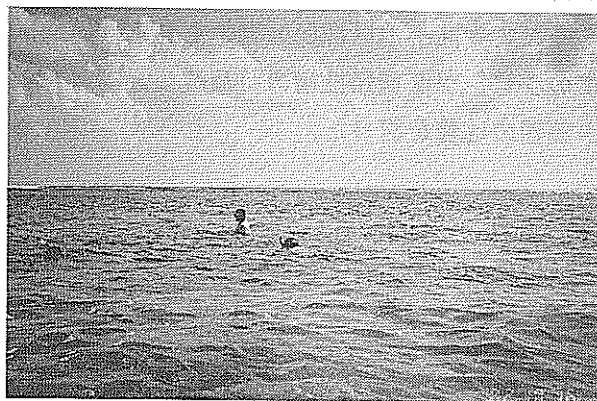
所を西と東に分けたが、西海域はケージに有孔虫の付着が多く、東海域では藻類の付着が多かった。また、水温と塩分濃度に関しても測定日が雨天であったけれども、水温22℃前後、塩分濃度34、35‰と養殖に適さない場所ではないと考えられた。しかし、定期管理においては東海域の清掃は通常どおりで良いが、西海域については有孔虫の付着がかなり多く、清掃が難しいため、設置場所の移動も考慮に入れる必要があると思われた。



比川地先へ運搬



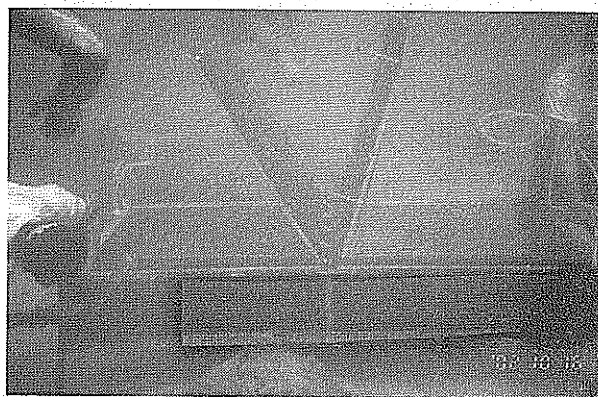
台風で損傷したケージの補修 (作業1)



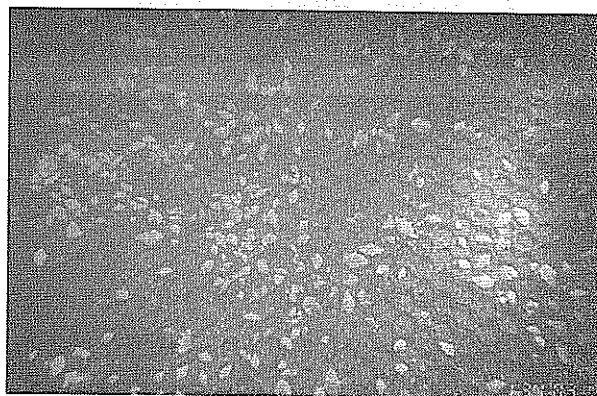
比川地先でのケージの設置作業



台風で損傷したケージの補修 (作業2)



海底ケージの様子



收容されたヒレジャコ種苗